

平成 29 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	ひょうごラテンコミュニティ
活動テーマ	スペイン語圏の住民への防災教育を通じた、災害時に誰もが安心できる地域社会にむけた防災ネットワークづくり



現在、約 10 万人のスペイン語圏の中南米出身者が日本で暮らしている。日本は様々な自然災害が起きるため、防災意識は他国に比べると高いといわれているが、日本在住の外国人、特に中南米出身者は防災意識が高いとはいえない。その上、日本語理解が不十分なために正確な情報の入手が困難で、災害時には不安によりパニックに陥ったりデマを信じやすい状態になったり、地域社会の混乱の要因にもつながりかねない。また、災害発生直後の対応や対策がわからない人が多いため、防災セミナーやガイドブックにより防災意識を喚起するのが、本事業の目的である。

これまで、当団体が行ってきたスペイン語による災害情報発信の経験から、様々な防災情報を収集して、それをスペイン語に翻訳し、親子で防災について学べるように写真やイラストを取り入れて「スペイン語版防災ガイド」を 1 万部作成した。このガイドブックは、日本各地に在住するスペイン語圏住民に無料配布している。

また、2018 年 1 月に、豊橋市(愛知県)、京都市、大阪市の三ヶ所でスペイン語圏コミュニティのための防災セミナーを開催した。このセミナーでは、阪神・淡路大震災の体験談や東日本大震災の話を通して、災害発生時にはどのような事が起こるのか、どのような行動を取ったのか、具体的な話を聞く事によって、実感と共感もてたようだ。また、災害時には、消防や警察など市民を守る機関も被災者になるので、地域住民同士の協力がとても大事であるということも学んだ。